

2016年度 新卒採用市場

■新卒の求人倍率（全国）

2016年卒の求人倍率が1.73倍に上昇しました。2012年3月卒（1.23倍）から5年連続の上昇となります。企業にとっては採用が難しくなり、学生にとっては就職しやすい売り手市場化がさらに進んだと言えます。

業界別では、特に建設業界の極めて高く、次いで流通業も高くなっています。

業界	2014年3月卒	2015年3月卒	2016年3月卒
全体	1.28	1.61	1.73
金融業	0.18	0.22	0.23
サービス・情報	0.41	0.54	0.56
製造業	1.31	1.59	1.73
流通業	4.76	5.49	5.65
建設業	4.77	5.61	6.18

●大手企業の採用意欲

今年は大手企業ほど採用に意欲的で、前年よりも採用数を減らす企業が10%だったのに対して「増やす」が42%、「前年並み」が39%だった。

●採用状況の厳しさ

大手企業の8割が「昨年と比べて大変になった」と回答。

「求人倍率データより実感として求人競争は激化している」とHR総研談。

●学生の大手志向傾向の強まり

文系学生の65%が「絶対、またはできれば大手企業に行きたい」

理系学生の70%が「絶対、またはできれば大手企業に行きたい」

●大手企業の採用増の理由

・成長事業の強化のため、理系採用中心に8割増加の300人採用予定（ソニー）

・新事業創出のため1割増加の800人採用（パナソニック）

・海外展開を支えるグローバル人材の育成のため3割増の1200人採用

（ファーストリテイリング）

<技術力、生産力の維持>

・技術の確実な伝承、若手の育成を急ぐため9割増加の1620人（新日鉄住金）

・安定した国内生産体制の維持のため技能工を4割増の2045人採用（トヨタ）

■徳島県内企業の採用意欲

徳島県内主要 50 社アンケート（徳島新聞）では、2016 年入社を採用人数を増やすと答えた企業は昨年と同数の 18 社に上りました。採用意欲が高い状態が続いています。

採用を増やすと答えた企業：18 社

採用を増やす理由

<成長分野への投資>

- ・新規事業所の開設
- ・海外事業の強化

<生産力の拡大>

- ・受注増のため
- ・業績が好調で売上の拡大が見込める

<技術力、生産力の維持>

- ・定年退職者が増える
- ・専門技術を持つ社員の長期的な育成

採用を減らすと答えた企業：7 社

- ・景気の様子を見極めたい
- ・新規事業の拡大の見込みがない

採用数は変わらないと答えた企業：24 社

■採用手法

採用は前年より厳しくなると考える企業は 6 割を超え、各社採用手法に工夫や変化が見られました。

- ・会社説明会の実施回数を増やす
- ・大阪、東京などの県外でのセミナーへの参加
- ・説明会の定員数を減らし、接触時間を増やす
- ・学内セミナーへの積極的な参加
- ・ウェブセミナーの新設

・賃上げ

- ・インターンシップを導入している企業（33 社）

スケジュール

2016年卒採用では、募集開始が12月から3月に後ろ倒しされました。新スケジュールの下、学生と企業がどのように活動したかをまとめました。

(1) 2月28日まで（募集開始前）

動きの速い学生はオープン前にすでに活動を開始しています。インターンシップ、OB・OG訪問、就職ナビなどで情報収集などを行っています。

インターンシップと称して、3年生の8月から実質的な選考を行う企業もありました。大学側も3年生の夏から始まるインターンシップが実質選考である事を学生に伝え、積極的な参加を促しています。結果、就職活動期間の短期化という目的は見失われ、長期間不透明なスケジュールでの選考となりました。企業サイドからも不満が多く出て、スケジュールの再検討という議論が浮上しています。

(2) 3月 エントリー状況

オープン時期1ヶ月の学生のエントリー数は、最も多いものの前年より約20%減少しました。全体としてのエントリーは38%の減少となりました。

会社説明会などのセミナー予約も3月に最も多く行われました。(前年の予約は開始3か月後の2月がピーク) ※セミナー参加が最も多かった時期は4月となっています。

全期間を通じたエントリー社数や、セミナー参加数、ES提出社数、面接社数の全てで前年を下回っています。3月は広い視野でエントリーを行い、その後は企業を絞って選考に参加していたと考えられます。

学生が活発に動く、オープン時期(3月)にエントリー数確保・会社説明会予約の促進を行うことが重要になってくると言えます。

2015年度新卒と2016年度新卒採用の学生のエントリー件数の比較

開始1ヶ月	2015年度 12月 44.3件	2016年度 3月 35件
開始2ヶ月	2015年度 1月 21.2件	2016年度 4月 11.6件
開始3ヶ月	2015年度 2月 11.8件	2016年度 5月 5件
開始4ヵ月	2015年度 3月 8件	2016年度 6月 2.8件
開始5ヵ月	2015年度 4月 4.3件	2016年度 7月 1.7件

(3) 4月～6月 (会社説明会～最終選考)

4月は学生が最も多く**企業説明会**に参加しました。

(2015年度新卒採用は、開始3か月後の2月がピーク)

学生が参加した会社説明会の平均社数

3月：5.8社

4月：8.2社 (ピーク)

5月：5.2社

6月：2.9社

7月：1.2社

5月は最も多くの企業が**1次選考**を行いました。

企業が1次面接を実施した時期

3月：35.5%

4月：67.2%

5月：68.1% (ピーク)

6月：60.9%

7月：50.8%

6月は、最も多くの企業が**最終選考**を行いました。

企業が最終面接を実施した時期

3月：6.1%

4月：20.7%

5月：30.6%

6月：36.8% (ピーク)

7月：35.2%

2015年度新卒採用は、選考解禁の4月に最終選考を行った企業が**50.8%**となり、それ以外の月は30%以下で、4月を軸に最終選考を実施することが暗黙の了解になっていました。

しかし、2016年度採用のスケジュールは大きくばらつきが出ました。

(4) 7月～10月 (内定出し)

8月からは倫理憲章で選考が解禁となるので、7月までに中小企業から内定を得て、8月以降に大手企業から内定を得るという流れが出来たようです。

6月1日時点の内定取得率：34.5%

7月1日時点の内定取得率：49.6%

8月1日時点の内定取得率：65.3%

8月15日時点の内定取得率：70.1%

9月1日時点の内定取得率：78.1%

10月1日時点の内定取得率：86.4%

※リクルート調査

内定取得者の内、**8月1日～15日に内定を取得した割合：44%**

8月前半に内定出しが集中していると言えます。

8月1日～8月15日に内定を得た企業へ学生の65%が入社を希望しています。

●**地域別の内定取得率：7月末時点**

全国平均：57%

四国平均：60%

徳島：66%

愛媛：63%

香川：61%

高知：47%

7月末時点での四国は内定出しが全国的に早いエリアで、その中でも徳島県の学生の内定取得率は**66.0%**と四国でも最も高かったようです。

※マイナビ調査のため、上記数字と若干の誤差があります。

2016年度新卒採用でのトピックス

■大手企業（従業員1001名以上）の内定式、内定辞退率

●内定式が開催できない

昨年12月の調査では、内定式の予定を10月1日としていた大手企業（1001名以上の会社）は70%だったが、8月の調査では55%に減少したが、実際では10月1日に内定式は73%となった。

全体では45%、大手企業では73%、中堅企業では48%、中小企業では32%と、企業規模による実施率に大きな違いが出た。

●大手企業の内定辞退状況

大手企業の24%では内定辞退率が40%を超えている。

大手企業の30%は内定充足率が5割以下にとどまっている。

大手企業の4%は内定者が0名となった。

■学校別/就職活動終了時期

●9月時点での就職活動終了時期

早慶クラスの学生の80%が就職活動を終了。

その他上位校の学生の70%が就職活動を終了

下位クラスの私立大学生も56%が就職活動を終了。

■インパクトのあった会社説明会

三井物産・・過去最大規模となる説明会を複合施設「東京ミッドタウン」で開催。

通常の説明会では10社程度で使う大型会場を単独で押さえ、役員やグループ会社の社長が丸1日、2,000人の学生を集客。

資生堂・・600人を集客した合説に魚谷社長が参加。資生堂トップが説明会にのりだすのは過去初めて。講演終了後も熱心な学生からの個別質問を30分近く受け付けた。

JTBメディアリテリング・・東京港に寄港するタイミングで全長310メートル、タイタニック号の4倍の大きさを誇る米大型クルーズ客船「ボイジャー・オブ・ザ・シーズ」を使った会社説明会を開催する。

丸亀製麺・・説明会で入社式をハワイですると打ち出す。

伊藤忠商事・・映画監督の是枝裕和さんが手がけたCMでPRする。

2017年度新卒採用活動予測

■2017年度新卒採用活動で重要になると思う施策との大手企業への質問

第一位・・・学内企業セミナー

第二位・・・自社セミナー・説明会

第三位・・・キャリアセンターとの関係強化

■インターンシップを行う大手企業が増加

2016年度 インターンシップ実施の大手企業 46%

2017年度 インターンシップ実施予定の大手企業 70%

※実施時期12月～2月

■2017年度大手企業の選考予測

面接開始時期のピークは3～5月になると予測され、経団連のルールに縛られるはずの大手企業でさえ、8月まで待ちきれずに3月からスタートすると答えた企業多い。

3年生の夏休み明けからターゲット大学のキャリアセンター訪問、その後学内セミナー、12月～2月はインターンシップでの母集団形成。

3年生3月から面接を開始し、早ければ4月からの内定出し。

8月以降に内定出しをすると答えた大手企業は22%となった。**2016年度新卒採用で苦戦した大手企業が、採用活動を早めるとのことが予測される。**

■2017年度の動き方

経団連の時期変更については、企業、大学、学生の各方面からの批判も多く、経団連の定める時期については、形骸化されていくのではないかと考えられます。そのため、就職ナビオープンからの3月からの選考活動が開始されると考えられます。

中小企業への影響としては、3～5月は大手企業との選考バッティングが予測されます。

3～5月の母集団形成は苦戦する可能性はあるものの、8月以降の辞退率は軽減する可能性があります。ただし、後半戦（6～8月）についても随時状況を判断しながら、母集団確保を目指す必要があります。